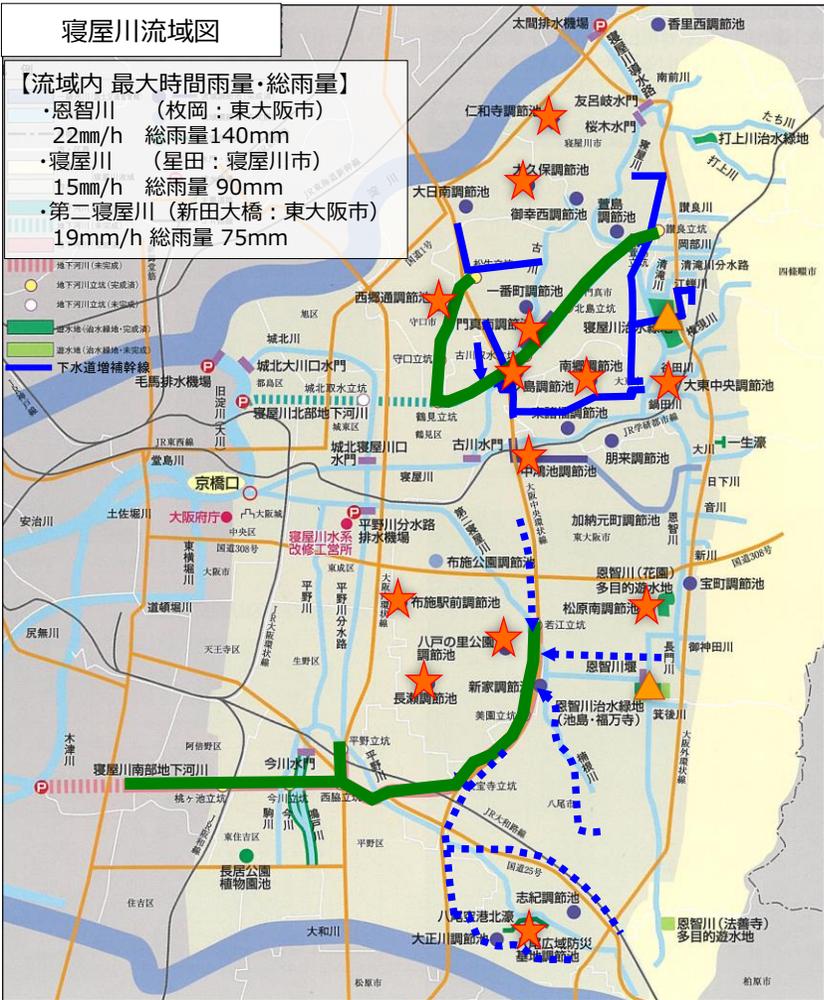
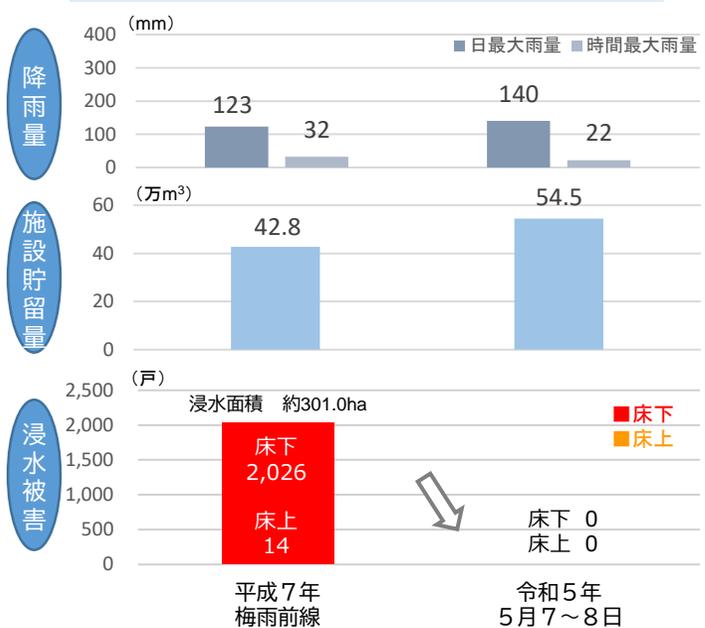


- 寝屋川流域では、河川、下水道等が一体となった総合治水対策として、遊水地、地下河川、流域調節池、下水道増補幹線等の貯留施設の整備を推進中。
- 去る5月7～8日の降雨は、平年の5月降水量（136.5mm）に相当する大雨であり、これと同規模の大雨で平成7年には約2,000戸の家屋浸水被害が発生するも、今回は家屋浸水被害が発生せず。
- **寝屋川流域ではこれまでの施設整備効果により、今回豪雨で施設が無い場合に想定される約325haの浸水被害を解消。（浸水被害軽減効果額は約350億円※）**



< 治水施設が効果を発揮し、浸水被害を大幅に軽減 >



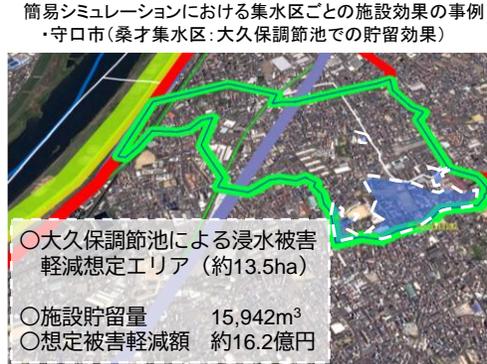
【流域内 河川施設貯留状況】



【令和5年5月7～8日の施設貯留量（令和5年5月8日10:30時点）】



【調節池による浸水被害軽減エリア（想定）】



※ 簡易シミュレーションでの試算による。ただし、流域対応施設、外水施設の浸水被害軽減効果は対象外。